

かとうき桜子

区政レポート



2018年3月号

(議会報告通号 Vol. 116)

〒178-0063 練馬区東大泉 3-1-18-102
電話 03-3978-4154 FAX03-3978-4158
HP <http://www.sakurako-nerima.com/>
メール sakurako_happy_society@yahoo.co.jp



メールマガジン発行中!

2月24日、25日、We フォーラム in 大阪に参加してきました



(左) コリアタウンの神社で、「朝鮮通信使の時代は日本と朝鮮の関係はとても友好的でした」という説明

(右) 北芝にある、駄菓子屋やお惣菜屋さん

「多様性を尊重し暮らしやすい社会をつくる」という視点で、被災した地域のことや学校教育のこと、全国各地の福祉や様々な興味深い取り組みをとりあげている「We」という雑誌があります。2014年から2016年に、かとうき桜子も記事を連載していたのですが、その「We」を作っている人たちが中心に企画している「We フォーラム」に参加してきました。

「We フォーラム」は毎年、様々な地域で行なわれており、私はこれまで横浜、福島、水保などのフォーラムに参加してきました。今年の「We フォーラム in 大阪」では、コリアタウンのコミュニティを知るフィールドワークや、地域の交流拠点の取り組みを伺ってきました。

まず鶴橋の周辺は、日本に生まれ朝鮮半島にルーツを持つ人が多く暮らしているため、自分のルーツを知り、日本とのつながりについて、日本人の住民と一緒に考える取り組みをしている保育園や学校の先生のお話を伺いました。また、箕面市にある北芝という地域で、若者を中心にコミュニティカフェや仕事づくり、高齢者の居場所づくりなどを行っているNPOの話もお聞きしました。北芝は被差別部落で、差別されてきた背景があります。90年代半ばから「自分たちのまちは自分たちの力で良いまちにしよう」という取り組みが始まり、その中で育ったこともたちが「大人が楽しそうに仕事をしているから自分も将来はこの地域のために働きたい」と思うという話を聞きました。

両地域の話を聞く中で、差別される側に強くあることを求めたり、マジョリティに近づくことを求める社会は、部落差別や民族差別のみならずあらゆる差別を容認することにつながりかねないということを学びました。違いを認められる社会の側の幅の広さが求められるということを考えさせられました。

二〇一八年四月

かとうき 桜子

2018年度予算の審査

2月2日～3月9日の区議会第一回定例会では、2018年度の予算の審査をしています。今回のレポートでは予算委員会で私が発言した内容のうち若い女性への支援についてご紹介しました。

その他の内容は順次このレポートでもご紹介していきますが、ブログにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



【予算特別委員会でかとうき桜子が発言した内容】

- ★区の財政が区民のみなさんに見えやすく分かりやすくなる情報発信の工夫を。
- ★来年度、大泉学園町体育館は改修工事で数か月間休館になるが、現場で働く人の雇用環境が不安定にならないよう委託事業者としっかり協議し区としても配慮をすること。
- ★いわゆる「ごみ屋敷」への対応をするにあたっては、福祉的視点からの支援を。
- ★自殺対策を早急に進めること。
- ★高齢の人、障害のある人、ひとり親など住宅確保用配慮者に対する住宅セーフティネットのしくみづくりを。
- ★区立小中学校での給食費など徴収金の事務処理の透明性確保を。
- ★地域の見守りのしくみを充実させ、児童虐待の防止を。
- ★障害のある人の多様な働き方の保障を。
- ★ひとり親家庭世帯への学習支援の充実を。

駅でのレポート配布について

かとうき桜子は、月に1回のペースで新しい区政レポートを作成しています。視察など遠出をする場合などに間があくこともありますが基本的に1ヶ月で1めぐりするように、おおむね以下のようなスケジュールで朝の通勤時間帯(7時～8時30分頃)に駅前で配布しています。

- ・毎週月曜日：大泉学園駅北口
(喫煙所の近く、駅正面のドトール前、グランエミオのビルの近く、みずほ銀行の近くの4か所を順番に回っています。月曜日が祝日だったり、月曜日に視察等があり都合がつかないときには曜日を変更する場合があります。)
- ・月2回、火曜日：大泉学園駅南口(1階ロータリーと2階デッキ)
- ・水曜または木曜のうち月3回：保谷駅北口と南口(北口正面、線路沿いの道、南口西友前)
- ・月3回、金曜日：石神井公園駅(中央改札側の駅正面と高架下と、西口改札付近)

かとうき桜子プロフィール

- 1980年生まれ。現在、区議会議員3期目。
- 慶応義塾大学文学部に在学中、ホームヘルパー2級の資格を取得
- 大学卒業後、夜間の上智社会福祉専門学校に入学、社会福祉士取得
- NPOで介護の仕事をする中で、地域福祉・地域社会にさらに深く幅広くかかわる必要性を感じ、2007年区議会議員選挙に初挑戦、当選
- 公立保育園の民営化問題に疑問を感じ、区議の活動のかたわら立教大学大学院・21世紀社会デザイン研究科にて研究。2010年修了
- 2012年、検診で子宮頸がんが見つかり治療。女性の健康へのとりくみの必要性についても政策提言
- 大泉学園町4丁目に猫3匹と夫と住んでいる



若者支援では丁寧なフォローを！

近年ようやく注目され始めた若者への支援

行政の役割は、「人が生きている中で必要なことに対応していくこと」といえます。ライフステージに合わせて言えば、保育・幼児教育、学校教育、放課後支援といった子どもの支援から始まり、妊娠、出産、子育て支援、DV被害者支援、障害のある人への支援や介護、健康保険や健康診断、スポーツ活動などの健康支援、仕事探しや企業支援など多岐にわたります。

しかし、ごも期あと、結婚、出産をしていない若い世代に公的サービスが関わることはほとんどありませんでした。それが、2000年代になって「ニート」の存在で注目され、現在は「若者サポートステーション」という国の事業で引きこもりがちな若者の過半数が就労支援が行なわれています。

この「若者サポートステーション」は区内でも2013年度から実施されていますが、

練馬に限らず多くの地域において若者サポートステーションの利用者の6〜7割が男性です。男性参加者の多い若者サポートステーションは女性が参加しづらいという実情がある中で、横浜市では、生きづらさを抱えていたり引きこもりがちな女性の実態調査を行ない、女性のみを対象にした先駆的な取り組みをしています。

見えてくる、女性特有の課題も

横浜市の実態調査によると、男性だけでなく女性も、学校や職場の中でのつらい経験から体調を崩したり自信を失うなど、生きづらさを感じて引きこもりがちな女性も多いためです。

しかし、女性の場合、学校や仕事など社会とのつながりを失って実家で暮らしていたとしても、「女の子だから」「家事手伝い」「祖父母の介護を手伝って助かる」というように、本人の意思と関係なく社会とのつながりが途絶えていることが、男性に比べ可視化されづらいのです。

この実態調査を経て横浜市は、当初はパソコン講座など直接すぐに就労につながる訓練の場を試行したそうです。しかし、生きづらさを抱える人にとっていきなり就労を目指すことはハードルが高いため、まずは安心して定期的に通い、過ごし、話せる場があること、自分の持つ生きづらさなどどう付き合っているかを考える機会を持つことが必要と考えました。そこで、ソーシャルスキルの訓練から有給のアルバイトへとステップを進める「めぐカフェ」など、女性のみが対象の支援事業を実施しています。

私は2014年に、横浜の取り組みの視察に行き、練馬区でも同様な場づくりをすべきと提案してきました。

そして、練馬区でもついに今年度から若い女性への支援が始まりました。石神井公園駅の近くにある男女共同参画センター「えーる」で、かつて引きこもりの経験をされた当事者を講師にお招きしたワークショップやヨガ体験をするといったシングル女性向けの事業をしています。

このような取り組みを当事者に知っていただき、参加していただくことは時間がかかることなので、継続していくことが重要であると指摘しました。

就労支援の前の、地域の居場所づくりが重要

また、来年度から「えーる」では、出張ハローワークや面接会などの就労支援の場が始まります。これは、今まで「えーる」で実施されてきた就労に向けた講座を修了した受講生の次のアクションを支援するという趣旨のものです。

そうしたニーズへの対応も必要ですが、先に紹介した若い女性向け支援の観点では、就労支援の前の段階の「いつも行かれる場」「つくりも必要であると提案しました。

支援から抜け落ちる氷河期世代

また、就職氷河期（1990年代半ば〜2005年頃）の世代の人は、新卒の時から非正規雇用であることも多く、そのまま年代が上がって、経済面、住まい、将来のことなどに不安を抱えている人もいます。私も2003年に大学を卒業します

したが、その世代は現在30代後半から40代なので、若いころからの課題は40代にも及んでいるといえます。しかし、現在の「若者支援」の施策は多くの場合、対象年齢が30代までで、40代は利用できません。40代は若者支援からも高齢年齢支援からも除外されている世代です。若者支援が進みつつあるからこそ見えてきたこの新たな課題にも目を向けるべきと指摘しました。

練馬区男女共同参画センター「えーる」での支援事業

時期・回数	内容
2017年度に練馬区が行なった若年女性支援	
対象：19歳～39歳のシングル女性（シングルマザーを除く）	
5～6月の3回	<ul style="list-style-type: none"> 男女共同参画センタースタッフによるオリエンテーション（自分探し） ヨガ コミュニケーションスキルアップ
1～2月の6回	<ul style="list-style-type: none"> 当事者の経験談、参加者それぞれの生きづらさの共有 ヨガ 仲間づくり、地域での活動についてのワークショップ
2018年4月から実施予定の女性のための就労支援事業	
	<ul style="list-style-type: none"> 出張ハローワーク 保育付きミニ面接会 子育てママの就活支援講座 講座やフォローアップの場の提供など

